

2011年9月期第3四半期連結決算

2011年7月29日

株式会社三菱総合研究所

1. 2011年9月期第3四半期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

第3四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

	2010年9月期 3Q累計 (10~6月)	2011年9月期 3Q累計 (10~6月)	増減額	増減率
売上高	57,712	55,560	△2,152	△3.7%
売上原価	45,098	44,648	△449	△1.0%
売上総利益	12,614	10,911	△1,703	△13.5%
販管費	7,791	8,591	800	10.3%
営業利益	4,823	2,320	△2,503	△51.9%
営業利益率	8.4%	4.2%	△4.2P	

第3四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

	2010年9月期 3Q累計 (10~6月)	2011年9月期 3Q累計 (10~6月)	増減額	増減率
営業利益	4,823	2,320	△2,503	△51.9%
営業外損益	151	328	176	
経常利益	4,975	2,648	△2,326	△46.8%
特別損益	△118	△475	△357	
税金等調整前四半期純利益	4,857	2,172	△2,684	△55.3%
法人税等	2,206	813	△1,392	
少数株主利益	114	152	38	
四半期純利益	2,536	1,206	△1,330	△52.4%
1株当たり四半期純利益(円)*	154.42	73.43	△80.99	△52.4%

*1株当たり四半期純利益は期中平均株式数により算出： 2010年9月期3Q・2011年9月期3Q 16,424千株

セグメント別業績 <前年同期比>

(百万円)

		2010年9月期 3Q累計 (10~6月)	2011年9月期 3Q累計 (10~6月)	増減額	増減率
シンクタンク ・コンサルティング事業	売上高	17,310	16,819	△490	△2.8%
	営業利益	1,970	689	△1,280	△65.0%
	営業利益率	11.4%	4.1%	△7.3P	
ITソリューション事業	売上高	40,402	38,740	△1,661	△4.1%
	営業利益	2,831	1,607	△1,224	△43.2%
	営業利益率	7.0%	4.1%	△2.9P	

2011年9月期第3四半期累計(10~6月)のまとめ

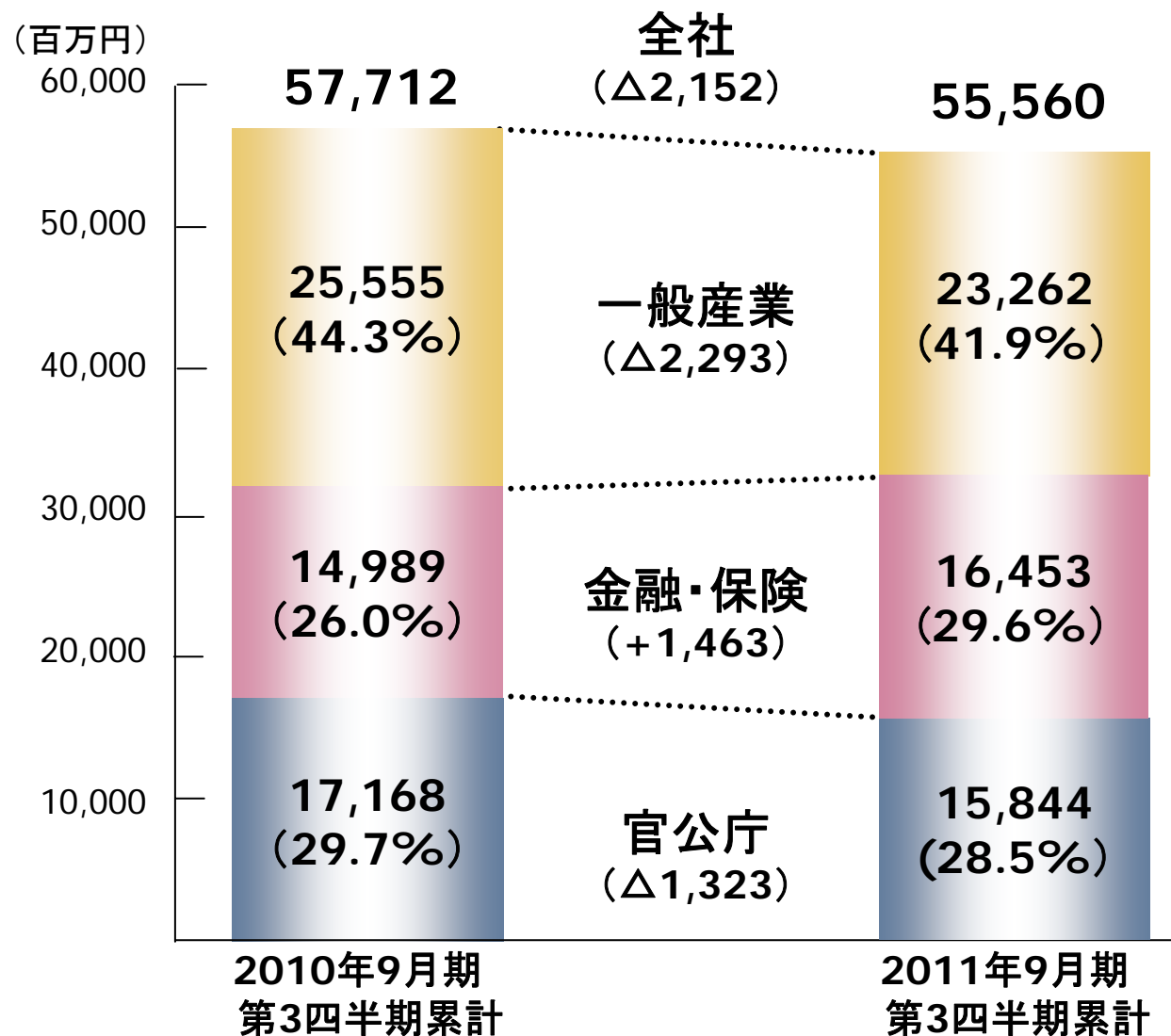
売上高:555.6億円 前年同期比▲21.5億円

- (－)官公庁案件の減少
- (－)前期まで続いた法改正対応案件の一巡
- (+)金融業向けソリューション案件の伸長
- (+)新規連結子会社(アイ・ティー・ワン)の貢献

営業利益:23億円 前年同期比▲25億円

- 売上総利益の減少:案件不足による稼働低下に加え、官公庁案件で外部委託コストがかさむ案件が増加し、売上総利益率低下
- 販管費の増加:移転に伴う費用、営業強化、コーポレート業務効率化ほか施策費用等の発生による

顧客業種別売上高 <前年同期比>



営業利益の変動要因 <前年同期比>

【売上総利益減少】

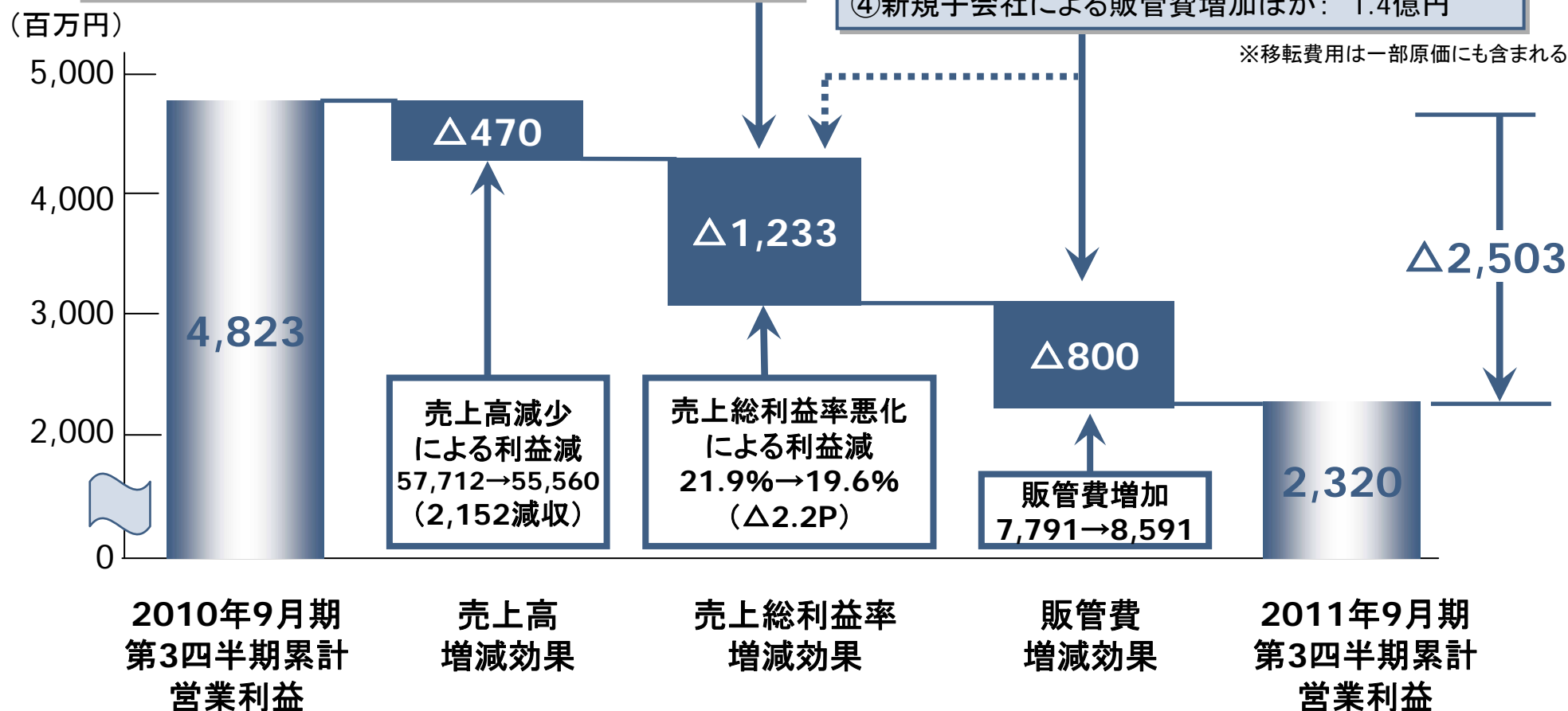
- ✓ 案件不足により稼働低下
- ✓ 3Q(4~6月)売上の官公庁案件で外部委託コストのかさむ案件割合の増加
- ✓ 研究開発への取り組み増

【ベースコスト増】

9.3億円増

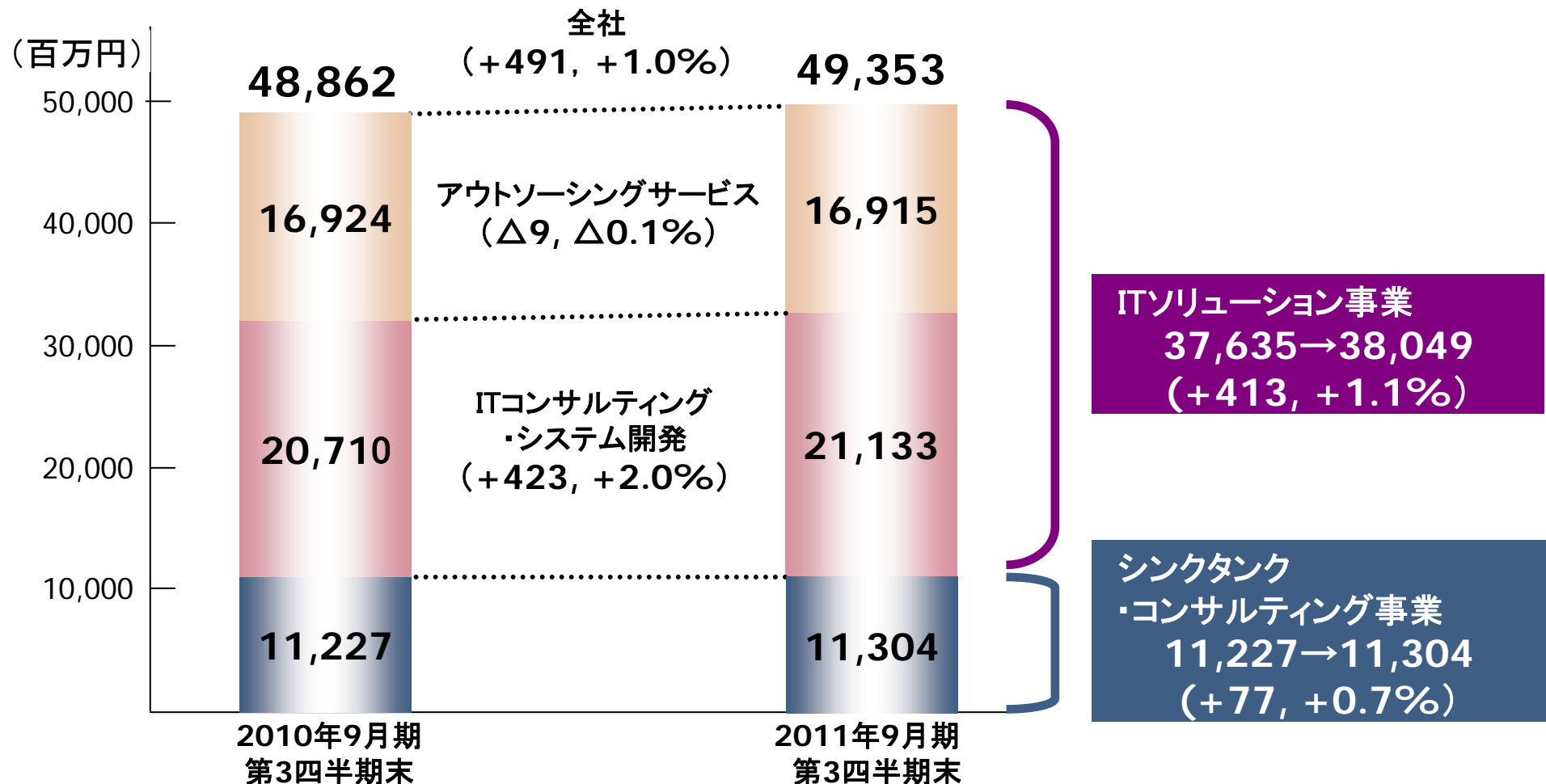
- ① 移転に伴う一時費用 : 1.0億円
- ② 移転による恒常的費用増加 : 2.5億円
- ③ 営業強化、中期成長のための施策費用
(コーポレート業務効率化ほか) : 4.4億円
- ④ 新規子会社による販管費増加ほか : 1.4億円

※



セグメント別受注残高 <前年同期比>

震災影響・厳しい環境下で受注伸び悩むも、翌期売上案件は前同比プラスで推移



1. 2011年9月期第3四半期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

2011年9月期 連結業績予想

前回(4/28)予想から変更なし

短納期案件の獲得、経費の圧縮に取り組み、営業利益38億達成を目指す

(百万円)

	2010年9月期 実績 ①	2011年9月期 (4/28予想) ②	前期比	
			増減額 ②-①	増減率
売上高	73,323	73,100	△223	△0.3%
シンクタンク・コンサルティング事業	20,222	21,154	+932	+4.6%
ITソリューション事業	53,101	51,946	△1,155	△2.2%
営業利益	4,875	3,800	△1,076	△22.1%
営業利益率	6.6%	5.2%	△1.5P	
経常利益	5,030	4,100	△931	△18.5%
当期純利益	2,516	1,900	△617	△24.5%
1株当たり当期純利益(円)*	153.22	115.68	△37.54	△24.5%

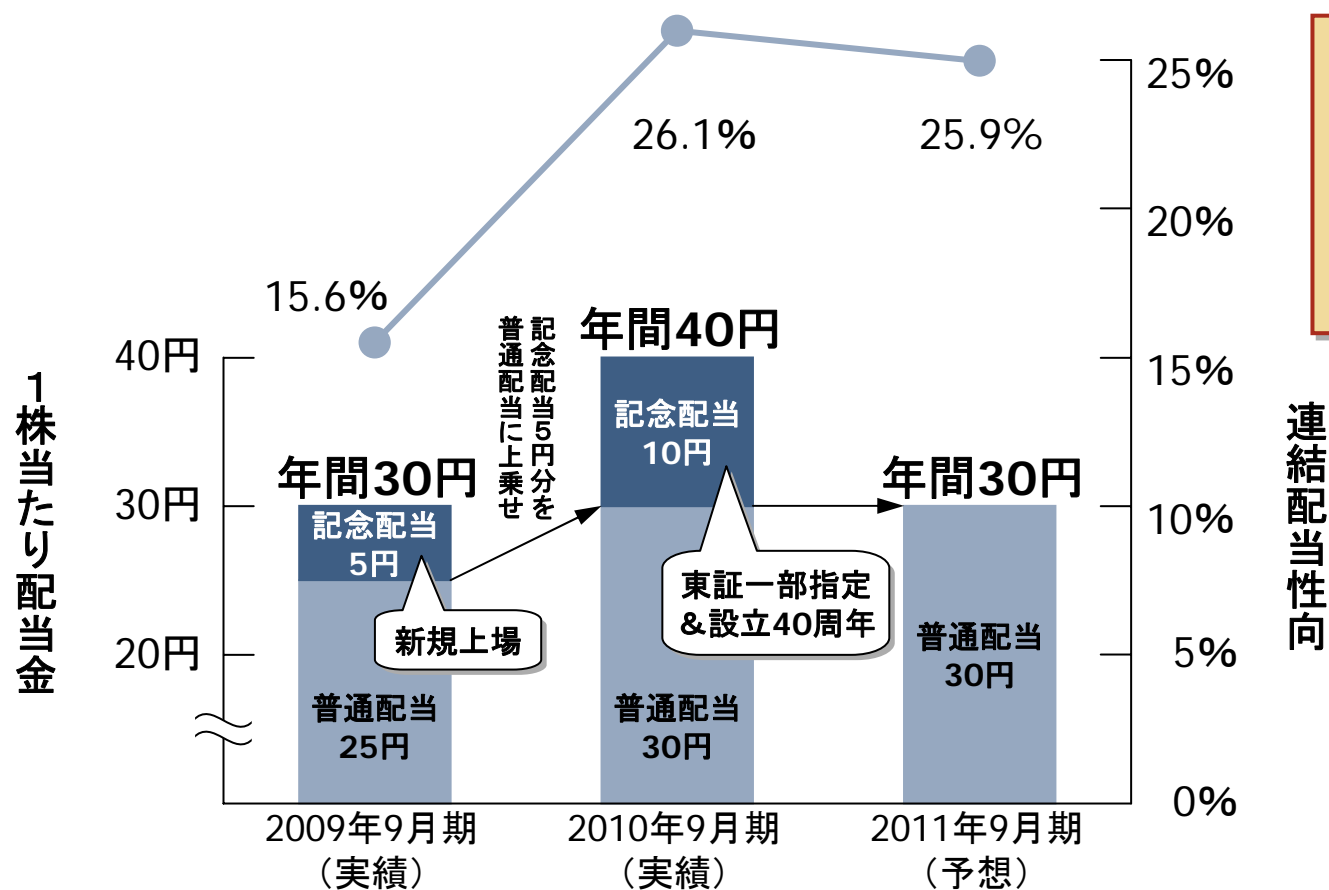
* 1株当たり当期純利益は期中平均株式数により算出：2010年9月期・2011年9月期 16,424千株

2011年9月期配当予想

前回(4/28)予想から変更なし

配当方針

連結ベースにおける業績動向、財務状況を総合的に勘案しつつ、必要な内部留保に努めながら、連結配当性向20%～25%に漸次高めていくことを目指し弾力的に決定



2011年9月期
 中間配当: 15円
 期末配当予想: 15円
 年間配当予想: 30円

1. 2011年9月期第3四半期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

情報センターの安全対策強化

2011年7月



三菱総研DCS 千葉情報センター

強み

- ▶ 海拔30mの耐災害性に優れ、情報インフラが整備された千葉ニュータウンに立地
 - ▶ 建物は建築基準に定められた耐震性能を上回る基準で建設
 - ▶ ライフラインの2系統化＋地震に強い免震床の採用などサービスの継続性では万全の体制
- ➔ **24時間・365日、高いセキュリティレベルのアウトソーシングサービスを提供**

高まる利用ニーズ・増加する電源需要に備え、

設備増強

2009年9月IPO時の新規株式発行による手取金を充当


増強

以下設備を増設、万一の停電時に、顧客の事業継続をさらに高レベルで支援可能

- ▶ **非常用発電機** ……2台増設、1台ごとに発電機を停止して維持・保守を行うことが可能となり、長期間の停電にも対応可能な体制
- ▶ **無停電電源装置** ……非常用発電機設備稼働(約40秒)までのタイムラグをカバー、各階の電源需要増加への柔軟な電源供給が可能な体制


プレスリリース

2011年7月15日



クラウド型データ分析サービスを開始 ～3万人、約2,000設問の生活者パネルでビジネス機会を発見～

三菱総合研究所では、日本の生活者の価値観、ライフスタイル、消費行動の変化を見通すためのクラウド型データ分析サービス「生活者市場予測システム(MIF: Market Intelligence and Forecast)」を開発、2011年8月末より企業の新事業、新商品開発担当者向けに会員サービスとして提供開始予定。

生活者市場予測システム(MIF)の提供サービス  <https://mif.mri.co.jp/>

ベーシック調査

- 定点調査としては日本最大規模を誇る30,000人、2,000設問の生活者情報保有
- 簡単にクロス集計し、結果をグラフ表示するクラウド型データサービスで、簡単にいつでも情報取得が可能

バリュープラス・サービス

- 30,000人の生活者パネルに対して貴社独自のマーケティング調査(Web調査、MROC)がいつでも可能
- 追加設問と基本2,000設問を掛け合わせた詳細なプロファイリング分析が低コストで可能

プレスリリース

2011年5月26日

スウェコ社と環境共生・高齢化対応まちづくりで協業

三菱総合研究所では、スウェーデンの大手コンサルティング会社、SWECOインターナショナル株式会社(社長 エヴァ・ニグレン、スウェーデン スtockホルム市、以下スウェコ社)と、環境共生・高齢化対応まちづくりの実現に向けて協業を進めることで合意、5月24日、覚書に調印した。

スウェコ社は、スウェーデン政府が推進する「環境共生都市(SymbioCity)」の全体計画の策定を担う中核的企業。従来の縦割型のインフラ整備を廃し、統合的都市開発手法を導入することで、環境効果を大幅に高めることに成功している。

当社は、2011年3月にプラチナ社会研究センターを新設、21世紀の世界的な課題である地球温暖化と高齢化問題を、

まちづくりを通じて解決を目指す「プラチナシティ(三菱総研商標)」を提唱してきた。

両社が進める都市開発モデルは目的、方法論で共通部分も多く、今後の途上国・新興国の経済成長に伴う資源エネルギーの制約、温暖化や高齢化の進展を考えると、国内はもとより、世界、特にアジアにおいて、大きなニーズがあると判断し、今回協業の覚書調印となった。

まずは、日本国内での統合的都市開発や震災復興計画の提案・策定支援を推進していく予定。



SWECOインターナショナル
社長 エヴァ・ニグレン氏

三菱総合研究所
代表取締役社長 大森京太

プレスリリース

2011年4月～6月



震災復興提言1

<http://www.mri.co.jp/NEWS/press/index.html>

三菱総研グループは、危機対策・復興再生プランの設計に知恵と力を結集し、単なる災害復旧にとどまらず震災に強い地域、企業、街づくりなど、わが国の社会・産業に明るさと活力、発展性を取り戻す方策を提言・実現していきたいと考えています。

4月8日 東日本大震災からの復興に関する提言

- 被災地域における対策、電力危機への対策、復興計画のあり方について提言

4月18日 2010～2012年度の内外景気見通し(東日本大震災後の改定値)

- 東日本大震災の影響を踏まえ、内外経済予測値の改定

4月21日 夏の停電回避を確実にするために～鍵を握る家庭部門の節電行動～

- 東京電力管内の家庭を対象としたアンケート調査を実施、今年の最大需要日の電力需要を予測

プレスリリース

2011年4月～6月



震災復興提言2

6月9日

**東日本大震災を教訓として安全・安心社会を再構築しよう
～行政・企業・学界そして一人ひとりが行動すべきこと～**

- 教訓として、災害対応力向上のために速やかに実施すべき事項を提言
- 中長期的改善提案として、さらなる安全・安心の追求のための提言

6月9日

**有事に強いサプライチェーンの構築により、産業力を強化する
～鍵を握るサプライチェーン・ガバナンス～**

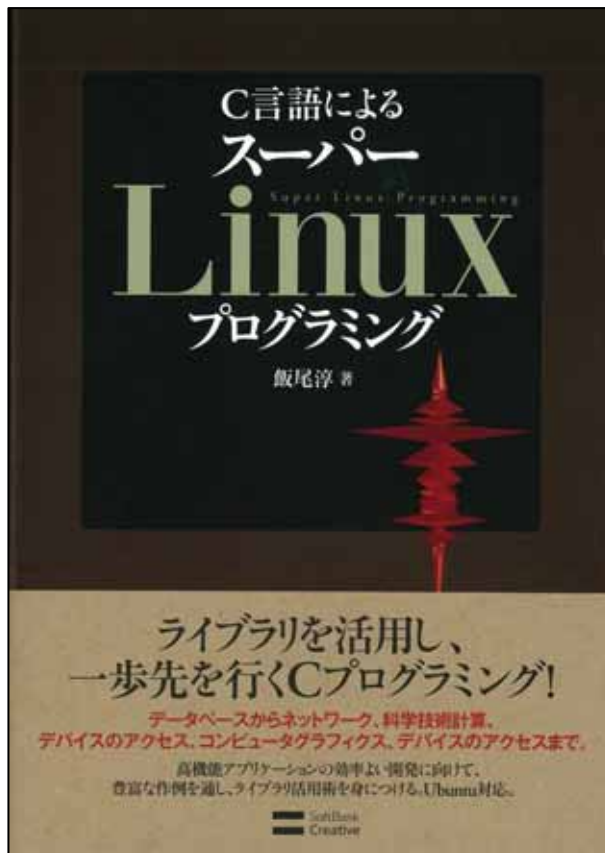
- 現在なお、国内外の産業活動に大きな影響を与えているサプライチェーンの問題解決と、わが国産業の国際競争力強化に向けての提言

6月9日

**地域の復興の中に未来への種を埋め込もう ～地域連携をベースに、
今後10年で将来も存続できる新たな生活、産業を創造～**

- 被災地域における住・職の確保、市街地・産業・地域コミュニティの再生について提言

出版物



書籍名 C言語によるスーパーLinuxプログラミング

著者 三菱総合研究所 飯尾淳

発行日 2011年6月10日

発行 ソフトバンク クリエイティブ

概要

Cの基礎を習得したプログラマを対象に、実践的なプログラミング手法や各種のライブラリを活用したアプリケーションプログラムの作成方法、現場で役に立つプログラミング技術を解説する。

データベース、ネットワーク、科学技術計算、GUIプログラミング、画像処理とコンピュータグラフィクスといった具体的なテーマを紹介。豊富なサンプルプログラムと実施例で実際の動作を確認しながら楽しく技術を学ぶことができる。

第I部 基礎編：実践的Cプログラミングの学習

- 第1章 なぜいまCなのか
- 第2章 Ubuntu が提供する学習環境
- 第3章 大規模プログラミングとライブラリの利用
- 第4章 プログラムの移植性
- 第5章 ライブラリの特徴と活用時の注意点

第II部 活用編：さまざまなライブラリを利用したプログラミング

- 第6章 オプション解析
- 第7章 データの取り扱い
- 第8章 データベース・アプリケーション

- 第9章 ネットワーク
- 第10章 科学技術計算
- 第11章 画像データ処理
- 第12章 GUI プログラミング
- 第13章 コンピュータグラフィクス
- 第14章 デバイスのアクセス
- 第15章 エンコードとデコード、文字列の解釈
- 第16章 テスト手法

第III部 実践編：プログラム開発事例

- 第17章 プログラミング事例：導入から基本的操作まで
- 第18章 プログラミング事例：操作方法の拡張
- 第19章 プログラミング事例：アルゴリズムの実装

将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含めこれら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等は、これら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。

株式会社三菱総合研究所
広報・IR部 IR室

TEL : 03-6705-6001
FAX : 03-5157-2171
E-mail : ir-info@mri.co.jp
URL : <http://www.mri.co.jp/>